

## 地方創生推進交付金の効果検証【外部評価】

平成30年11月実施

事業効果(自己評価)の区分(①非常に効果的であった、②相当程度効果的であった、③効果があった、④効果がなかった)

外部有識者の評価の区分(①有効であった、②有効とは言えなかった)

| No | 交付対象事業の名称                           | 事業概要   | 交付金<br>実績額          | 本事業における重要業績評価指標<br>(KPI)       |            |     |         | 事業終了後<br>における<br>実績値 | 達成率   | 事業効果<br>(自己評価) | 外部有識者の評価   |            |  |  |  |  |  |
|----|-------------------------------------|--|---------------------|--------------------------------|------------|-----|---------|----------------------|---|----------------|--|------------|--|--|--|--|--|
|    |                                     |  |                     | 単位：円                           | 指標         | 指標値 | 単位      | 実績値                  |   |                | 事業の<br>評価  | 外部有識者からの意見 |  |  |  |  |  |
| 1  | 都心から1時間で出会えるスローライフ体験事業（H28年度～H30年度） | 【全体概要（目的）】<br>秦野市は都心から1時間程度の距離にあり、都心と豊かな自然「丹沢」が共生する「いい意味での田舎」である。しかし、豊かな自然はあるものの、観光資源・施設が点在しており、周遊性や滞在性に結びついていない。また、当市の9割を占める日帰り観光客が立寄る飲食店や魅力ある商品などがないため、市内での消費額が少なく、地域経済の活性化に結びつきにくいことが課題となっている。<br>そこで、ひと・まち・自然という「秦野らしさ」に磨きをかけながら、“住み続けたい・住んでみたい魅力あふれるまち”として魅力を発信し、人の流れを呼び込み、まちの賑わいを創出することを本事業の目的とする。 | 4,989,600           | 年間観光客数<br>(増加分)                | 42,000     | 人   | 464,000 | 1105%                | ③効果があった<br><br>(評価理由)<br>交付金充当事業に係る予算を計画どおり執行することができたため効果があつたと判断した。     | ①有効であつた        | ・効果的な事業計画の立案に向けては、秦野市の入込観光客数の大部分を占める大倉（表尾根）、ヤビツ峠を訪れる登山客の数（観光統計における基礎数値）をより正確に把握することが重要です。<br><br>・土日・祝日における駅発・登山客利用のバス始発便については、都内からの登山客の利便性向上のため、前倒し運行ができるようバス事業者と協議する必要があります。<br><br>・構築した周遊ルートを生かすためには、観光客の行動パターンとそれに応じた具体的なニーズを把握することが重要です。<br><br>・観光客の市内消費を促進させるためには、庁内はもとより、外部の関係機関との緊密な連携が重要であり、シティプロモーションの戦略と一体的に取り組んでいく必要があります。また、観光客へのきめ細かい案内、情報提供も積極的に行っていく必要があります。<br><br>・土産品等の商品開発については、地場産品にこだわらず、都内からの観光客やインバウンドを意識し、湘南圏域などの広域で捉えた設定も必要です。 |            |  |  |  |  |  |
|    |                                     |  |                     | 観光客の年間消費額<br>(増加分)             | 0          | 円   | -       | -                    |   |                |  |            |  |  |  |  |  |
|    |                                     |  |                     | 観光協会が定める「秦野観光推奨品」への新たなブランド品の登録 | 0          | 個   | -       | -                    |   |                |  |            |  |  |  |  |  |
|    |                                     | 【H29年度実績】<br>1年目の現状分析などを踏まえ、新たな観光推奨品の開発、秦野SAを拠点に周遊性のあるルートを構築した。また、これらを生かし、官民が連携したキャンペーンを実施できる体制を構築した。  | 12,474,000          | 年間観光客数<br>(増加分)                | 44,000     | 人   | 17,000  | 39%                  | ③効果があった<br><br>(評価理由)<br>3年間の事業であり、事業の効果を発揮できる段階に至っていないものの、年間観光客数は増加した。 |                |  |            |  |  |  |  |  |
|    |                                     |  |                     | 観光客の年間消費額<br>(増加分)             | 0          | 円   | -       | -                    |   |                |  |            |  |  |  |  |  |
|    |                                     |  |                     | 観光協会が定める「秦野観光推奨品」への新たなブランド品の登録 | 0          | 個   | -       | -                    |   |                |  |            |  |  |  |  |  |
|    |                                     | 【H30年度計画】<br>2年目の推奨品の試作やルートの構築を踏まえ、推奨品の実証販売やルートをPRするため、キャンペーンなどを実施する。<br>また、秦野SAスマートIC（仮称）などのインフラ整備に合わせ、本市の魅力である丹沢の自然豊かな環境を手軽に体験できるピーカンハントを目指さない、新たな山岳ハイキングコースを創設していく中で、丹沢唯一のテントサイトの活用など、拠点の再整備に向けた調査検討を行う。  | 11,250,000<br>(内示額) | 年間観光客数<br>(増加分)                | 44,000     | 人   |         |                      |   |                |  |            |  |  |  |  |  |
|    |                                     |  |                     | 観光客の年間消費額<br>(増加分)             | 57,882,000 | 円   |         |                      |   |                |  |            |  |  |  |  |  |
|    |                                     |  |                     | 観光協会が定める「秦野観光推奨品」への新たなブランド品の登録 | 3          | 個   |         |                      |   |                |  |            |  |  |  |  |  |

## 地方創生推進交付金の効果検証【外部評価】

平成30年11月実施

事業効果(自己評価)の区分(①非常に効果的であった、②相当程度効果的であった、③効果があった、④効果がなかった)

外部有識者の評価の区分(①有効であった、②有効とは言えなかった)

| No | 交付対象事業の名称  | 事業概要   | 交付金<br>実績額         | 本事業における重要業績評価指標<br>(KPI)            |        |     | 事業終了後<br>における<br>実績値 | 達成率  | 事業効果<br>(自己評価)  | 外部有識者の評価  |  |  |  |  |  |
|----|--|--|--------------------|-------------------------------------|--------|-----|----------------------|------|---|-----------|--|--|--|--|--|
|    |  |  |                    | 単位：円                                | 指標     | 指標値 | 単位                   | 実績値  |   | 事業の<br>評価 | 外部有識者からの意見   |  |  |  |  |
| 2  | 日本有数のカルシウム含有量を誇る名湯「鶴巻温泉」と表丹沢（大山）の地域連携によるまちづくり・経済活性化支援事業（H28年度～H30年度） | 【全体概要（目的）】<br>鶴巻温泉は日本有数のカルシウム含有量を誇る名湯であり、東京の奥座敷とも言われ、当該駅周辺は地域住民への商業等の機能を持った拠点であると同時に、温泉地という地域特性をもっている。また、本市と伊勢原市、厚木市をつなぐ大山は神奈川県有数の観光地のひとつであり、日本三百名山や関東百名山のひとつでもある。本市が取り組む鶴巻温泉街の再活性化に向けた、受け入れ体制強化の一環として、鶴巻温泉と大山のルート整備を図ることで、入込客の増加、及び発着地の経済活性化に資することを目的とする。 | 6,480,000          | 鶴巻温泉の観光客数（全国）※増加分                   | 0      | 人   | －                    | －    | ③効果があった<br><br>(評価理由)<br>交付金充当事業に係る予算を計画どおり執行することができたため効果があつたと判断した。                                   | ①有効であつた   | ・大山は紅葉に限らず新緑にも魅力があることから、本格運行に向けては、更なる誘客促進のため、紅葉（秋）時のほかに、新緑（春）時の運行も検討する必要があります。<br><br>・平成30年度の実証運行では、下り便（大山→鶴巻温泉）のみの運行としますが、本格運行に当たっては、ハイシーズンにおける伊勢原駅の混雑緩和、鶴巻以西からの観光客の利便性の向上、或いは秦野・伊勢原圏域の魅力向上のために、往復運行を前提にバス事業者と協議を進めていく必要があります。 |  |  |  |  |
|    |  |  |                    | 鶴巻温泉への年間訪問割合（市民）※増加分                | 0      | %   | －                    | －    |   |           | ・鶴巻温泉駅での観光客の受入については、行政や商業者の主導ではなく、地域住民が主役となり力を合わせて、まちづくりの一環として、取り組んでいくことが重要です。   |  |  |  |  |
|    |  |  |                    | 大山～鶴巻温泉バス利用者数（H29年度の実証運行に対する割合）※増加分 | 0      | %   | －                    | －    |   |           | ・交付金事業を生かすためには、温泉という資源を十分に活用し、鶴巻と大山との差別化を行い、鶴巻側の魅力を更に高めていくことが重要です。   |  |  |  |  |
|    |  | 【H29年度実績】<br>関係機関等による協議会、鶴巻温泉地区関係者による検討会を行うとともに、大山～鶴巻温泉間の路線バスの実証運行、実証運行による効果検証、実証運行のPR、本格運行計画（素案）の立案を行った。  | 12,474,000         | 鶴巻温泉の観光客数（全国）※増加分                   | 0      | 人   | －                    | －    | ②相当程度効果的であった<br><br>(評価理由)<br>3年間の事業であり、事業の効果を發揮できる段階に至っていないが、昨年、路線バスの実証運行をしたことにより、弘法の里湯の利用者数も増加している。 |           | ・市営の温泉入浴施設については、観光客受入の核となる施設であるため、利用客を待たせない工夫が必要です。  |  |  |  |  |
|    |  |  |                    | 鶴巻温泉への年間訪問割合（市民）※増加分                | 2      | %   | 2                    | 100% |   |           | ・交付金事業を生かすためには、温泉という資源を十分に活用し、鶴巻と大山との差別化を行い、鶴巻側の魅力を更に高めていくことが重要です。   |  |  |  |  |
|    |  |  |                    | 大山～鶴巻温泉バス利用者数（H29年度の実証運行に対する割合）※増加分 | 0      | %   | －                    | －    |   |           | ・市営の温泉入浴施設については、観光客受入の核となる施設であるため、利用客を待たせない工夫が必要です。  |  |  |  |  |
|    |  | 【H30年度計画】<br>関係機関等による協議会、鶴巻温泉地区関係者による検討会を行うとともに、より本格運行に近い形での大山～鶴巻温泉間の路線バスの実証運行、実証運行による効果検証、実証運行のPR、本格運行計画（素案）の立案、本格運行に向けた環境整備を行う。  | 5,240,000<br>(内示額) | 鶴巻温泉の観光客数（全国）※増加分                   | 20,000 | 人   |                      |      |   |           |  |  |  |  |  |
|    |  |  |                    | 鶴巻温泉への年間訪問割合（市民）※増加分                | 5      | %   |                      |      |   |           |  |  |  |  |  |
|    |  |  |                    | 大山～鶴巻温泉バス利用者数（H29年度の実証運行に対する割合）※増加分 | 10     | %   |                      |      |   |           |  |  |  |  |  |